

平成28年5月12日

各位

上場会社名 石垣食品株式会社  
代表者 代表取締役社長 石垣 裕義  
(コード番号 2901)  
問合せ先責任者 経理部経理課 課長 小西 一幸  
(TEL 03-3263-4444)

## 業績予想の修正および特別損失(減損損失等)の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、また、特別損失を計上することとなったことから、平成27年10月21日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	502	△54	△54	△55	△16.48
今回修正予想(B)	451	△83	△86	△178	△52.75
増減額(B-A)	△50	△29	△31	△122	
増減率(%)	△10.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	520	△74	△73	△74	△21.87

平成28年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	500	△24	△25	△26	△7.80
今回修正予想(B)	449	△51	△52	△165	△48.73
増減額(B-A)	△50	△26	△26	△138	
増減率(%)	△10.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	517	△30	△31	△85	△25.28

修正の理由

(1)単独

珍味事業のビーフジャーキーについて、原材料価格の高騰を受けた値上げを行うことで採算の改善を見込んでおりましたが、値上げ新商品への切替えに想定以上の時間がかかり、切替え期間中の出荷停止状態が長く続いたことに加え、値上げにより商品の価格競争力が低下し受注数量も落ち込んだことから、売上高が予想を下回ることとなりました。  
また飲料事業においても、冬季を最盛期とする健康茶の売上高が予想を下回ったほか、底堅い需要のある冬場の麦茶の売上高も予想を下回りました。  
損益面においても、これら売上高が予想を下回ったことで工場稼働率が低下したことや、ビーフジャーキーの値上げ前旧商品の在庫が予想より多く残ったことから処分販売を行う結果となり採算が悪化したことから、赤字が拡大することとなりました。  
更に、下記の特別損失を計上することとなったことから、大幅に赤字が拡大することとなりました。

(2)連結

単独決算と同様の理由により、また中国生産子会社の採算も悪化していることから、売上高が予想を下回り、赤字が予想より拡大することとなりました。

特別損失の計上について

(1)特別損失の内容

飲料事業及び珍味事業の収益性の低下に伴い、関連する事業用資産について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失を計上することとなりました。事業用資産の帳簿価額について、建物・土地・借地権は不動産鑑定士による鑑定評価額相当額まで減額し、構築物・機械装置及び運搬具・リース資産・建設仮勘定・その他無形固定資産については備忘価額まで減額いたします。

単独決算においては特別損失として減損損失73百万円を計上するほか、関係会社においても減損損失を計上し関係会社の企業価値が減少することから関係会社出資金評価損38百万円を計上いたします。

連結決算においては特別損失として減損損失91百万円を計上いたします。

(2)業績に与える影響および今後の見通し

特別損失の計上により業績に与える影響につきましては、上記の業績予想の通りであります。

以上